

第18課 近所付き合い（その2）

1. この課のねらい

- (1) この課では、近所付き合いの中でも、いわゆる世間話、立ち話と言われる種類の会話と、町内会の行事への参加をめぐるいくつかの言語行動を学習させる。
- (2) 世間話、立ち話には、その言語行動に特有の表現といったようなものはないが、日常の人間関係を維持するためには、この種の言語行動が重要であるとも言える。ここでは、その種の会話があることを認識させ、慣れさせておくというねらいをもつ。
- (3) 待ち合わせなどに遅れたときのあいさつができるようにする。
- (4) 家族が不在の場合に、かわって話しを受けるときの対応の仕方を身に付けさせる。

2. 学習項目とその扱い方

〔会話一〕

(1) 学習項目表

区 分	使 用	理 解
最重要項目		○今年も 灯油が 値上がりするそうですね。(1) ○そういえば 昨日 スーパーの前で お会いしましたよ。(5) ○「どちらへ お出かけですか。」なんて 言われて びっくりしちゃった。(7)

(2) 準備

美容院、病院の待合室など世間話が出やすい場面を材料に応用会話を作り、テープに録音しておく。文型はなるべく既習のものを使う。その際、自分あるいは身内がほめられたときの答え方として「いいえ、とんでもありません」など、他の表現も入れておく。

(3) 導入

①この会話本文は、会話の流れにうまくのるための簡単な質問や相づち、ほめられたときの答え方などが主たる学習項目である。会話の細部まで理解することよりも、会

話全体の大筋をとらえることがポイントである。

②導入としては、会話本文のテープを聞き、「灯油って何ですか」「へええ、そうですか」などの表現の使い方が理解できているかどうかを確認する。

(4) 練習

①縮約形（第20課「3. 文型・文法に関する参考事項」参照）「～ちゃった」の部分については、学習者にも言わせてみる。さらに、余裕があれば、形の練習として次のような変形練習をする。

練習例 びっくりしてしまいました。→ びっくりしちゃいました。

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1. いやになってしまいました | 2. 驚いてしまいました |
| 3. 困ってしまいました | 4. 悲しくなっていました |
| 5. うれしくなっていました | |

このような練習をして発音を確めてから、〔4. 表現練習〕を繰り返させる。その後、内容について、「なぜ、床屋さんはびっくりしたんですか」などの質問をして答えさせるのもよい。

②この会話では、ロールプレーなどは特に必要ないと思われるが、もし、ロールプレーを行うなら、教授者が床屋になり、「灯油」をほかのものにかえるとよい。

③〔3. 表現練習〕は、「そうだ」に二つの機能があることを認識させるためのものである。練習するとき、伝聞の場合は、「朝、新聞で読んだんですが」を前に付け、「雨は降りますか」「灯油は値上りしますか」などの質問に答えさせ、様態の場合は、〔会話一2〕で用意する写真などを見せて、「おいしいと思いますか」「安いと思いますか」などの質問をして「そうだ」の用法を覚えられるようにするとよい。

④一通りの確認が済んだ後で、用意した応用会話のテープを聞かせて、質問の形を使い、相づちをうつ練習をする。

〔会話－２〕

(1) 学習項目表

区 分	使 用	理 解
最重要項目	○中国のは もっと ずっと 大きいですね。(10) ○ええ、甘くて、それに 安いんです。(12) ○ええ、でも、豚肉なんかは、日本のほうが 安いですよ。(14)	○冬至って、一番 昼間が 短くて、夜が 長い日なんだけど。(5)
重 要 項 目		○林さん、冬至って ご存じ。(3)

(2) 準備

比較の練習のために、実際に目で見て比較できるようなものを用意する。例えば、長さの比較なら長さの異なる鉛筆、味や大きさの比較なら、野菜あるいは菓子の写真などを使うとよい。また、この写真は、形容詞の「～て」の練習〔2. 表現練習〕にも応用できるようなものがよい。

(3) 導入

- ①「冬至って知っていますか」「それでは、夏至は知っていますか」などと質問し「とうじですか」「げしですか」などの、問い返しができるかどうかを確認する。
- ②「冬至には何を食べますか」「中国のカボチャと日本のカボチャと、どちらが大きいですか」など、会話本文の後半部の内容に沿った質問をいくつかする。
- ③以上の質問を通して、予習が十分かどうか確認する。

(4) 練習

- ①テープを聞いて繰り返させ、内容の確認をする。特に、比較と形容詞の「～て」のところは、確実に言えるようにする。
- ②〔1. 表現練習〕を行う。用意した写真を見せながら〔1. 表現練習〕の形を発話させる。
- ③〔2. 表現練習〕についてはa、bの練習のほかに、用意した写真を使って、応用練習をする。応用練習をする余裕がない場合でも、形容詞の整理を兼ねて、次のようなキューを追加しておくといよい。

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 風が強いです、寒いです | 2. 暑いです、日が高いです |
| 3. にがいです、まずいです | 4. 高いです、狭いです |

5. 難しいです、大変です

6. つまらないです、いやです

④一通り練習が済んだところで、会話本文のロールプレーを行う。この会話の場面全体の練習としては、道で会った場面を考えロールプレーを行ってみる。話題としては、その季節あるいは学習者の身近な土地の話題などを用意しておくといよい。

〔会話－3〕

(1) 学習項目表

区 分	使 用	理 解
最重要項目	〇どうも、遅くなりまして。(3)	
重 要 項 目	〇いや、たいしたこと ありません から。(5)	〇いやあ、わたしも、今 来たところ なんです。(4)

(2) 準備

あいさつの表現と、そのあいさつがどこで行われているかを聞き取らせるために、集会あるいは待合わせなどの場面の会話を吹き込んだ応用会話のテープを用意するとよい。

(3) 導入

「アパートの掃除はだれがしますか」「草取りはだれがしますか、いつしますか」など、この会話の話題に関係ある質問をいくつかしてから、練習に入る。

(4) 練習

①会話本文のテープを聞いて繰り返す。

②定着したら会話本文の前半（林さんの「だいじょうぶですよ」まで）をロールプレーで練習する。この部分は、知人と出会ったときの一連のあいさつ行動と考えてよい。その後、さらに「林さん、お風邪ですか」という部分を、他の季節の話題（例えば、天気、気温など）にかえるなどして、応用練習をするとよい。

③その後、用意した応用会話のテープを聞き、話題は何か、どこで行われているかなど考えさせる。

〔会話－４〕

(1) 学習項目表

区 分	使 用	理 解
最重要項目	○正道は、まだ 帰ってきてないんですが。(4) ○どうも、わざわざ すみません。(10)	○お宅の正道君も、一緒にいかがですか。(3) ○じゃ、あしたまでに 聞いておいていただけますか。(5)

(2) 準備

近所の人などが、遠足、買物、スポーツなどに誘いにきたというような場面を考え、その会話を吹き込んだ応用会話のテープを用意しておく。

(3) 導入

「芋掘りに行ったことはありますか」「遠足に行ったことがありますか」など、話題への導入として質問する。

(4) 練習

- ①会話本文のテープを聞き、内容の確認をする。また、林さんの部分については反復させ、定着したところで、ロールプレーを行う。
- ②次に、用意したテープを聞かせ、「だれがだれを何に誘っているか」をおおづかみに聞きとらせる。
- ③さらに、余裕があれば、用意した応用会話のテープと同様に、学習者に誘いに行かせるという設定で、ロールプレーを行うのもよい。

3. 文型・文法に関する参考事項

(1) 受け身

受け身の形は、動詞に「れる・られる」を付けて作るが、日本語の受け身には、通例、二つの種類があるとされる。一つは、他動詞から作られるもので、「直接受け身」と呼ばれる。例えば、

1. 先生が私を呼んだ。→私が先生に呼ばれた。
2. 母が弟をしかった。→弟が母にしかられた。

このように、受け身の主語が、能動態の文の中にあるものである。

これに対して、「間接受け身」と呼ばれるものがあって、それは、

1. 雨が、降った。→私は、雨に降られた。

2. 父が、死んだ。→私は、父に死なれた。

というように、自動詞を含む文でも受け身の形にすることができその場合の主語は、能動態の文の中にはない。

この間接受け身は、「迷惑の受け身」とも言われ日本語の会話ではよく用いられる。また、直接受け身の方も“迷惑”という意味を持つこともある。間接受け身も、迷惑を表す場合だけでなく、「皆に喜ばれた」というように好ましい意味を表す場合もある。

(2) らしい・そうだ・ようだ

「そうだ」は、接続する動詞・形容詞の形式によって、二つの用法を持つ。

1. 連用形+そうだ(1)→推量 今日は暑くなりうそうだ。

2. 終止形+そうだ(2)→伝聞 今日は暑くなるうそうだ。

また、「らしい」「ようだ」は、「そうだ(1)」とともに、推量判断を表すが、この三つの違いは、何に基づいて、そのような判断をしたかによる。

次の三つの文を考えてみよう。

1. このケーキはおいしいらしい。

2. このケーキはおいしいようだ。

3. このケーキはおいしうそうだ。

「らしい」「ようだ」は、人から話を聞いたときとか、その場の状況に基づいて判断しているという場合に使い、「そうだ」は、話し手自身の推察・判断を表すのである。